

<霊的備え>

天は神の栄光を語り告げ 大空は御手のわざを告げ知らせる。  
昼は昼へ話を伝え 夜は夜へ知識を示す。話しもせず 語りもせず その声も聞こえない。  
しかし その光芒は全地に そのことばは世界の果てまで届いた。  
神は天に 太陽のために幕屋を設けられた。 (詩篇 19:1-4)

<理解の手引き>

「神の子」：天使という説もあるが、天使は結婚をしないので、これは墮落後も続いていた神に忠実な信仰者の群れ、セツの子孫をさしている。  
「人の娘」：神を無視し、世俗的で不信仰な生き方をしている女たちのことである。  
「120年」：人の寿命が短くなるということを意味しているとも考えられるが、神がさばきを人に下す前の120年の猶予期間とも考えられる。  
神の子たちが、その信仰者としての生き方を曲げ、人の娘たちと結婚したのである。本来結婚は神によって定められ、神の栄光を現わすためのものであるから、神に対する信仰によって男女が結び合わされなければならないはずである。しかし、神の子らは人の娘たちの外面的な美しさにひかれて結婚したのである。

<考えてみよう>

(観察) 神の子たちは、どのようなことを行いましたか？

.....  
.....  
.....

(解釈) 神は何故、人を造った事を悔やみ、心を痛められたのでしょうか？

.....  
.....  
.....

(適用) 神に喜ばれる人生、結婚とはどのようなものでしょう。

.....  
.....  
.....

<心に残ったみことばや気づき>

.....  
.....  
.....

<今日の祈り> (教えられたことを短い祈りで表す)

.....  
.....